

ジブチ月例報告 (2024年5月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

- 5月8日、国民議会において政府の一般政策に関する質疑が行われた。主要議題は3月3日の政府戦略指針に関する首相声明に関するもので、会議の議長はディレイタ国民議会議長が務め、アブドゥルカデル首相、国会議員、政府関係者が出席した。
- 5月13日、ゲレ大統領はジブチ・ソブリン・ファンドが主催する第1回ジブチ・フォーラムの開会式に出席。演説の中で、「民間投資を促進し、国内外のプレーヤーとのパートナーシップを強化することで、ジブチ・ソブリン・ファンドはジブチが卓越性、革新性、競争力の拠点として台頭する道を切り開いている。我々の絶対的な優先事項は、主権、独立性、安全保障を守りつつ、同胞市民の経済的繁栄、発展、幸福を保証することである。」と述べた。

【外政】

- 5月4日、ゲレ大統領はガンビアの首都バンジュールで開催されたイスラム協力機構（OIC）第15回首脳会議に参加。会議では、イスラム諸国が自分たちの地域が直面する課題、特に安全保障の面でより大きな影響力を持てるようにするための方法と手段や地球温暖化がもたらす困難について重要な議論が行われた。ゲレ大統領は演説の中で、「ラファへの地上攻撃に断固反対するよう、国際社会に強く働きかけることを提案する。」と述べ、また、各加盟国がパレスチナ国家の承認を求めるウンマ（宗教共同体）の呼びかけに好意的に応えることを提案。
- 5月5日、ゲレ大統領はギニアビサウを国賓として訪問。今回の訪問は、両国と両国民の友好協力関係の強化を目的としており、両国間の貿易に新たな弾みをつけるものである。昨年2月のエンバロ大統領のジブチ公式訪問以来、両国はすでに価値観の共有、相互利益、利益のバランスに基づく枠組み協力協定に署名済み。
- 5月7日、Thomas Rowekamp 連邦議会議員を団長とする、ドイツの国会代表団がディレイタ国民議会議長を表敬訪問。当地域における現在の地政学的状況や、ゲレ大統領が議長を務めるIGADを通じた安全保障分野におけるジブチの主導的役割について意見交換を実施。同表敬にはハイケ・フラウ駐ジブチ独大使も同席。
- 5月9日、バーレーンのAbdulatif Bin Rashid Al-Zayani 外務大臣がゲレ大統領を表敬訪問。5月15日から16日までバーレーンの首都マナーマにおいて第33回アラブ連盟首脳会議の開催が予定されており、同大臣は当該会議の議題について協議するためアラブ連盟加盟国数カ国を歴訪中。両者は同会議の主要議題をパレスチナ問題とする必要性について見解が一致した。同会議では、教育、保健、人権の発展に関する問題に

についても議論される予定。

● 5月27日、ゲレ大統領は、開発戦略と政策を専門とするコンサルタント会社を率いる元英国首相トニー・ブレア氏と会談を実施。「トニー・ブレア研究所」として知られる元英国首相のコンサルタント会社との間に築かれ得る戦略的パートナーシップについて協議を実施。同会談には、ユスフ外務・国際協力大臣、イリヤス経済・財務大臣らも同席。

【経済・開発】

● 5月22日、ベルギーを訪問中のハッサン・インフラ・設備大臣、ハディ港湾・フリーゾーン庁長官はアントワープ・ブルージュ国際港を訪問。ジブチ代表団は、同港湾施設の視察や、訓練、監視ドローンによる警備、鉄道輸送の分野における今後の協力について協議。アントワープ港は貨物輸送の7%に鉄道を利用しており、ジブチがベルギーの経験から恩恵を受けられる分野である。本視察にはジブチ港湾、鉄道関係者も随行。

【保健・衛生・社会】

● 5月2日、ラドワン通信大臣は、シェラトン・ホテルにおいて世界報道の自由デーを記念する式典を主宰。「地球に奉仕する報道：ジャーナリズムと環境危機」というテーマの下、今年のイベントは、地球環境危機の文脈におけるジャーナリストと表現の自由の重要性に焦点を当てた。ラドワン大臣はスピーチの中で「私たちは、生態系と世界中の何十億もの人々の生活に影響を及ぼしている気候危機による激変を目の当たりにしている」と述べ、この分野におけるジャーナリストの重要な役割を強調した。

【軍事・治安】

● 5月2日、イドリス・ファラ・アバネ警察学校において「MIADIT—Somalia」に参加したソマリア警察官第20期生訓練終了式を開催。式典にはサイド内務大臣、ザッカリア・ジブチ軍統合参謀総長、ザッカリア国家憲兵隊参謀長、ジブチ警察及びソマリア警察幹部、伊カラビニエリ副司令官や当地外交団らが参加。

● 5月5日、Brian Cashman 新アフリカ統合任務部隊（CJTF-HOA）司令官は、ザッカリア・ジブチ軍統合参謀総長への着任表敬を実施。両者は、地域の安全保障問題や専門知識を共有する機会など、相互の軍事的関心に関するさまざまな話題について意見交換を実施。

【日本関係】

● 5月4日から5日まで、松本尚・防衛大臣政務官がジブチを訪問。自衛隊拠点開隊13周年記念式典では、ジブチ政府、ジブチ軍及びジブチに駐留する各国軍の支援と協力への謝意を述べ、ジブチ軍との協力・交流を更に発展させる意図を表明

するとともに、駐留各国軍との交流の継続に期待を示した。同式典には、原大使をはじめ、大使館関係者、JICA関係者らも参加。

ブルハン国防大臣との会談では、両国間の防衛協力・交流案件等について進捗状況を確認し、自衛隊とジブチ軍を連携させ、更なる協力を推進させていくことで両者は一致。

また、アリ・ハッサン外務・国際協力省次官との会談では、地域情勢について意見交換を行うとともに、両国の防衛協力を更に発展させていくことを確認。

●5月6日、原大使はヘレム環境・持続的開発大臣を表敬訪問し、気候変動の影響、緩和策、炭素クレジット事業等について意見交換を実施。

●5月8日から9日まで、原大使はオボック州を訪問。ムーサ知事及びモハメッド州議会議長とともに、二国間関係、州の優先課題、開発計画等について意見交換を実施。また、国際移住機関(IOM)がオボックで運営している移民対応センターや同機関が運営するプラスチックごみのリサイクルセンター、日本が建設資金を支援した地下貯水槽が所在するメデホ村やオボック市内の女性のための職業訓練センター等を訪問。

●5月12日、原大使はジブチ日本友好議員連盟の前会長及び現会長とともに、二国間関係、地方連盟との協力、議員間交流の可能性について意見交換を実施。

●5月13日、原大使は当地で1983年からジブチ市で流通、小売、飲料製造・販売等の分野で活動するCoubècheグループのStéphane Rémon社長らとともに、日本との関係、同社の活動、ジブチ及び地域の経済状況等について意見交換を実施。

●5月14日、原大使はザッカリア・ジブチ軍統合参謀総長を着任表敬。日・ジブチ間のキャパビルや今後の建設機材等の供与について意見交換を実施。

●5月16日、原大使は石油化学産業の集積が期待されるジブチ・ダメルジョグ工業開発FZEを訪問し、初期段階の開発状況について意見交換を実施。同工業地区で工事中の液体バルク港の棧橋については間もなく完了する予定。

●5月16日、原大使はドラレ多目的港を訪問し、同港の港湾設備の機能等について説明を受けた。また、海上交易路の混乱を巡る状況や混乱前後のビジネスモデルの変化等について意見交換を実施。

●5月16日、原大使はジブチ国際自由貿易区の運営を担当するInternational Djibouti Industrial Parks Operation FZCOを訪問し、自由貿易区に多くの国内外企業が進出している状況を視察。

●5月30日、大島臨時代理大使は、ジブチ沿岸警備隊、警察、ジブチ海軍の下士官らを対象とした国際海洋法および国際移住法に関する研修コースの閉講式に出席。日本が資金を提供している同研修は、海上沿岸監視所の能力と海上での捜索救助活動のための警戒システムの強化を目的としている。

(了)